

### 高野山へ団参します

三年ぶりのお参りです。大師ご誕生千二百五十年の記念の年です。人数に限りがあります。お早めにお申し込みをお願いします。

五月十八日(木)～

十九日(金)

(一泊二日)

一日目 信貴山・根来寺  
二日目 高野山内の巡拝  
宿泊 龍泉院(宿坊)  
人数 二十五名  
会費 二万九千円程度

高野山では弘法大師ご誕生法要期間中の為、参拝料金などが通常より高くなっています。法要期間限定の特別拝観できるところもあります。どうぞご理解をお願いします。

金額については暫定額で減額できるようにしたいと思います。

### 真言宗の基礎知識(その四十五)

(弘法大師御入定の後 その一)

高野山の名声とともに、全国に広がった弘法大師への追慕の念は時代とともにさらに大きくなっていきま

す。特に、お大師さまが朝廷から命を受けて土木工事にあつた生誕の地に近い満濃の池の整備の実績は、中国で学ばれた技術もあつたのだとは思いますが、なにより、大衆を束ねて一つの目標に進む道をお示しになられて、たびたび水害を受けていた地元の人に大きな喜びをお与えになりました。

高野山の伽藍の造営も同じで、大工さんが今も使われている柱の符丁もお大師さまが中国から持ち帰ったものと言われています。

社会に貢献をし、人々に進む道を示し、それを率先して進まれたことは人から人へと語り継がれ、次第に崇敬の輪が広がって行きました。

高野山の奥の院にご入定されて八十六年の歳月が経過ののち、人間空海様は弘法大師の名前をいただき、苦しみを救う濟世の特別な存在に昇華されています。

お大師さまが歩かれた細く険しい道のりは、後に続く人々によって次第に大きな道となり、今に続いているのです。

### 上之坊の近況

コロナ禍ではありましたが、二月の節分星祭りは今年も二部に分けて実施をしました。また、三月八日から十日まで四国は讃岐を中心に巡拝をいたしました。

三月十二日に得度式が行われ、三月二十六日に真明寺の晋山式が行われました。

今後は、今年四月に次男 良行が高野山の専修学院に入り、これから一年間修行に入り来年三月に卒業の予定です。また、五月には真明寺の住職辞令を本山にて授与いただく予定となります。

上之坊の住職も年が七十歳に近くなり、これから始まる住職の交代に向け、昨年十一月の総代会で、総代の中に建設委員四人程度を選任し、今後の寺内整備や晋山を検討することになりました。ご意見や提案があるかたは是非お知らせをお願いします。

四月十六日(日)お寺のユギ塔周辺の掃除を有志の方で二時間ほど予定されています。時間は九時半～十一時半までです。どうぞよろしくお問い合わせいたします。

# 上之坊だより

令和5年4月6日  
第97号  
福山市大門町大門325  
電話 (084) 941-1031  
fax (084) 941-1168



得度式の受者と戒師並びに教授

こう ぼう だい し せい ご しょう  
**弘法大師聖語抄**

なんと したが めぐ  
**南斗は随い運れども**

ほつきよくせい うつ  
**北極星は移らず**

弘法大師は遣唐使船に乗って中国の長安まで教えを求めて留学しましたが、当時の船は大変小さく、命を賭けた大変な旅でした。

嵐に遭遇しましたが、どうか中国にたどり着くことができました。昼間は波だけなんの目印もなく漂うばかりでありましたが、夜になり、月や周りの星はすべて動いて、唯一北極星だけは不動で輝き、羅針盤として、正しく進む方向を示し続けてくれたと想像します。

世の中には時代とともに変化するものが多くあります。

習慣や社会常識さえも時代とともに変化をしています。しかし、その中で北極星のように、進むべき道を教えてもらえる不動のものが大切になつてまいります。

今年、弘法大師が生誕して千二百五十年の節目の年を迎えました。今までの長い歴史を経ても、そして、これから、その教えは変わることなく輝き続けていくはずですよ。

### 得度式 開催

コロナ禍で順延されてきた得度式でしたが、今年令和五年三月十二日に執行され、三人の方がお坊さんの仲間入りをされました。

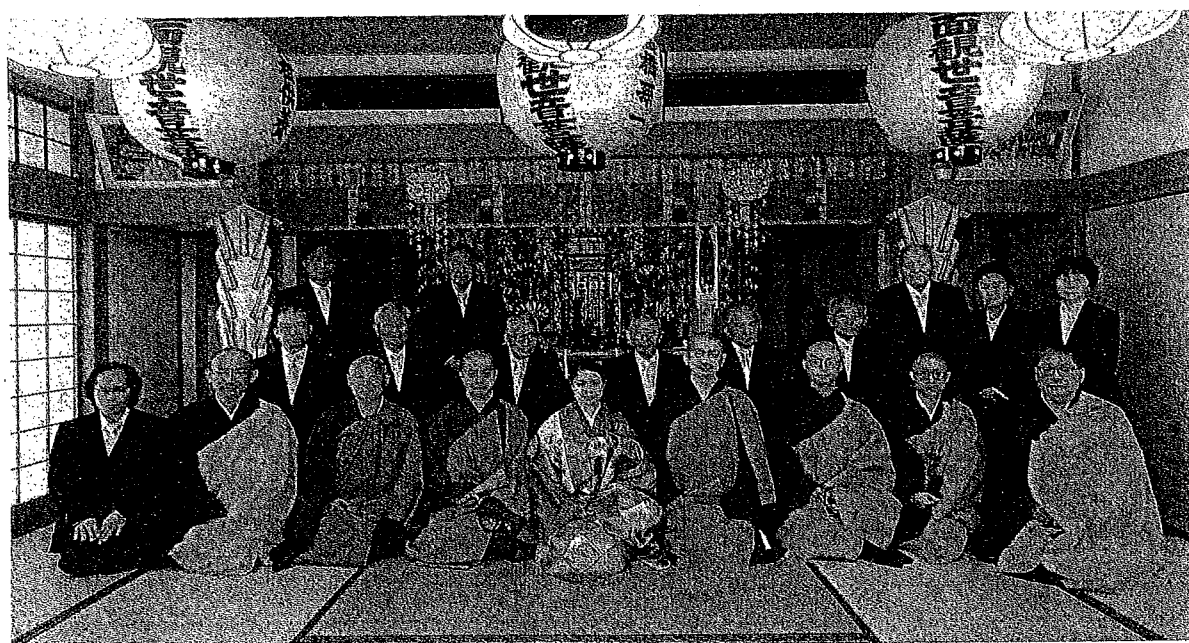
三人の方は玄冬会での研鑽のほかに、得度式の受者だけでお経や衣のつけ方などの勉強会も行い、当日に臨みました。

得度式には戒師だけではなく、教授（受者の横で作法を教える）、承仕（教授のお手伝い）、唄士（お経を唱える人）、証明士（見とどける人）などが必要で、各自がそれぞれの役割をもって動きます。

今回の得度式は集団で行われる得度式ではなく、受者の一人ひとりがしっかりと作法を行い、貴重な体験をして、僧侶としての資格を得られたと思います。

上之坊ではいままでも何度かの得度式を行ってまいりましたが、前は平成三十一年に実施して以来五年ぶりの式典で、特に今回は門戸を広げて、ご希望される方に得度の応募をしていただきました。

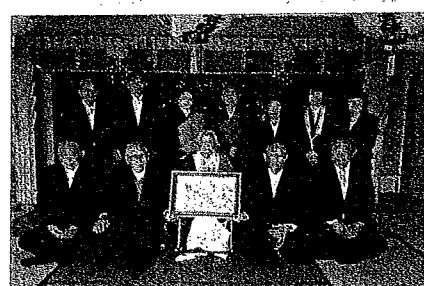
晋山式写真 五年三月二十六日



委任証進呈(3月26日)



晋山式法要(3月26日)



昨年12月11日住職在位50年表彰

### 弘法大師 ご生誕 千二百五十年 記念大法要

こうぼうだいし せいたん きねんだいほうよう

お大師さまは今から千二百五十年前、平安時代の初期の宝亀五年（七七四）六月十五日に、讃岐国（香川県）の善通寺市の屏風ヶ浦（びょうぶがうら）でご誕生されました。父方は佐伯直田公（さえきのあたいたのきみ）、母方は玉依存御前（たまよりごぜん）です。

幼名は真魚（まお）と云われ、出家してから教海（きょうかい）、如空（にょくう）、と変わり、二十二歳の時に空海（くうかい）になりましたが、入定後に嵯峨天皇から弘法大師の名前を頂きました。いまでは空海よりは弘法大師のほうが有名になっています。

延暦二十三年（八〇四）に唐（中国）に渡り、真言密教を惠果和尚より伝授されました。これを日本に持ち帰り、高野山や四国八十八ヶ所の霊場や京都の東寺などで教えを弘められました。それだけではなく、日本で最初の民間の大学（京都の種智院大学）を創られたり、土木技術や建物の建築技術などでも大きな影響を今に伝えられています。

もし、お大師さまがいっしょにいらなかったら、私たちの文化も大きく変わっていたことでしょう。このお大師さまがお生まれになられてから、今年が数えて千二百五十年目に相当します。

昔から、お大師さまがご入定された承和二年（八三五）と、高野山を御開創された弘仁七年（八一六）、そしてお大師さまのご誕生された弘仁七年（八一六）の三つの年から数えて五十年毎に、そのご遺徳を慕って大法要が行われてまいりました。

今回の大法会は中心の会場は四国の善通寺で、今月四月二十三日から六月十五日までの期間に善通寺では毎日行事が行われる予定となっています。なお、この期間中のみ、御影堂（みえどう）では秘仏の瞬目大師（めひきだいし）像がご開帳されたり、記念のご朱印は書き置きのみのお授与で、これにホログラム付きの御影（おみえ）が頂けるそうです（ただし納経料が千円となります）。また、通常は無料の参拝ですが、この期間は宝物館などに入るには拝観料が二千円必要となります。

なお高野山でもご遠忌法要やご開創法要ほどではありませんが、今年五月十四日から七月九日まで法要期間が実施され、志納金が三千円必要となります。

上之坊では当初、今年の高野山参拝を五月八日に予定していましたが、（前号に記載）。しかし、大法要直前の準備に繁忙な時期を避け、金銭的には多少割高になるかもしれませんが、五月十八日と十九日の大法要期間中の参拝に変更いたします。